1

【出題の意図と対策】

文学的文章（小説）の読解で、ここでは、植松三十里の『家康の海』が題材です。幼い時に朝鮮から日本へ連れてこられた「おたあ」が、朝鮮の使者と面会する家康に呼ばれ、朝鮮の活字文化に触れる場面が描かれています。小説を読むときには、登場人物の立場に立って、その境遇や心情に寄り添いながら読むことが大切です。そのうえで、それぞれの設問について、何が問われているのか、文章中のどの部分が根拠となっているのかを確認しながら、解答していきましょう。

【解答】

① ⓑ じゅうこう　ⓒ あなど（る）

② 例 日本にはない優れた活字の技術がある（17字）

③ イ

④ エ

⑤ 例 優れた国だと認め、それを自分に伝えようとする家康の態度が好ましく（32字）

⑥ ア

【解説】

② ポイント《文章の内容を正しくまとめられるかどうか》

家康は、「おたあ」に活字の金属片を見せて、朝鮮には「活字文化」があることを伝えました。家康の発言「日本にはない優れた技じゃ」の「技」が「活字の技術」を指すことをおさえ、指定字数内にまとめましょう。

③ ポイント《人物像を正しく理解できるかどうか》

アは、「おたあ」は「帰国」の意志を家康に問われ、返事に詰まっており、「懐かしさを抑えられず帰国を願っている」ことは読み取れません。**イ**は、家康は育ての親である小西行長の敵であったことなどの自分の特殊な境遇を理解しつつ、家康の言動を冷静に観察する「おたあ」の描写に合います。また「珍しく素直な気持ちを口にした」とあることから、普段は本音を言わないことが読み取れます。**ウ**は、「気さくな人間」「強い疎外感を内に秘めている」が本文から読み取れません。**エ**は、「行長のことに触れられると感情的な行動に出てしまう」が本文から読み取れません。

④ ポイント《ことばの意味を正しく理解できるかどうか》

直前の「双方のよさを認め合おうと、さっき話したところじゃ」という家康のことばによって、その場がよりいっそう和んだことが読み取れます。よって、「非常に和やかなこと」という意味の**エ**「和気藹々」があてはまります。**ア**「威風堂々」は「非常に立派なこと」、**イ**「虎視眈々」は「野心をもって機会をねらっていること」、**ウ**「清廉潔白」は「絶対に不正がないこと」という意味です。

⑤ ポイント《文章の内容を正しくまとめられるかどうか》

「おたあ」の家康への態度に注目すると、返答ができていないことや、「珍しく素直な気持ちを口にした」とあることから、打ち解けた関係ではないことがわかります。しかし、今「おたあ」が「心を開けた気がし」ているのは、「劣っていたのだと、思い込んでいた」祖国の朝鮮について「家康が優れた国だと認め……それを懸命に、おたあに伝えようとしている。そんな態度が好ましく」感じたからです。この内容を字数内でまとめましょう。

⑥ ポイント《文章の表現の特徴について理解できるかどうか》

アは、家康と「おたあ」の両方に配慮し、関係が悪くならないように調整する、阿茶局の有能さの説明に合っています。**イ**は、「楽しい気分」が本文から読み取れない内容です。**ウ**は、「本音ではなく、目の前にいる朝鮮の使者たちに配慮した発言」が合っていません。**エ**は、「おたあ」が「今後の日本と朝鮮の外交に貢献する」かどうかは、この場面からはわかりません。

2

【出題の意図と対策】

説明的文章（論説文）の読解で、題材は、石毛直道『道草を食いながら――出会った人びと、食文化』です。伝統芸能や武道に見られる日本の「型」の文化について紹介し、現代の日常生活における「型」の喪失について問題提起をしています。論説文を読むときには、例に挙げられている事柄と筆者の意見を読み分け、文章の構造を考えながら、どんな話題に対してどのような意見を述べているのかを読み取ることが大切です。

【解答】

① ⓒ 姿　ⓕ 喪失

② ウ

③ 例 自由な自己表現によって伝承された型をさらに洗練させ、あたらしい型を創出（35字）

④ ア

⑤ X 個性の表現　Y 保存の対象

⑥ エ

【解説】

② ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》

アは、「選ばれた人間に伝承されてきた」が合っていません。**イ**は、第一段落に「平等にあつかわれた」とありますが、「枠外にいる者からは敬意を払われる」とは述べられていません。**ウ**は、第一・二段落を中心としたこの文章の内容と合致します。**エ**は、「型」を「クライマックスのときの、一瞬静止したポーズ」に限定している点が合っていません。

③ ポイント《文章の内容を正しくまとめられるかどうか》

「型やぶり」については第一段落で「型を完全にマスターしたのち、非常に才能のある者だけが」「自由な自己表現をすること」と説明されています。さらに、第六段落では、「才能のある者は伝承された型をさらに洗練させ、あたらしい型を創出する」ことが「型やぶり」だと端的にまとめています。よって、指定語句を手掛かりに、「型やぶり」が「自由な自己表現」であること、「伝承された型」を「洗練させ」て、「あたらしい型を創出する」行為であることの三点を押さえ、字数内でまとめます。

④ ポイント《文法（連体詞）の知識があるかどうか》

「その」と、**ア**「小さな」は、体言を修飾し、活用しない自立語である連体詞です。**イ**「寒さ」は名詞、**ウ**「白く」は形容詞、**エ**「たおやかに」は形容動詞です。

⑤ ポイント《筆者の主張を正しく理解できるかどうか》

筆者が、「世界の近代化現象」を、「型の文化」の「喪失」とどう関連づけて説明しているかをつかみましょう。「世界の近代化」という「潮流」においては、「個人のふるまいの自由度」が優先され、「形式主義を排除」しており、同様に日本においても、「個性の表現や独創性に欠けたマンネリズム」だとして「型の文化」が批判されるようになりました。その結果、「保存の対象」と認識された「伝統文化」以外の「様式の美学」が失われていったと書かれています。よって、Xには「個性の表現や独創性に欠けたマンネリズム」、Yには「保存の対象」があてはまります。筆者は終わりの二段落で、「深刻なのは、日常生活における型の文化が喪失したことである」「現代生活における型は、いまだ創出されていない」と結論づけています。筆者は、日本の「型」の文化について説明するだけでなく、「日常生活における型の文化」が「喪失した」現状に警鐘を鳴らしています。

⑥ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》

アは、「優れた芸術家や評論家に評価されると名前が付けられ」の部分が合っていません。**イ**は、「芸術性をそぎおとした技術として認識されている」の部分が、第四段落の「職人芸としての芸術性」という内容に合っていません。**ウ**は、本文から読み取れない内容です。メールと手紙の文例との関係は述べられていません。**エ**は、終わりの二段落の内容に合っています。

3

【出題の意図と対策】

日本における鰹の文化について書かれた文章です。鰹を題材にした俳句、川柳、長歌などの古典を紹介しつつ、日本の食文化を掘り下げています。俳句などの韻文は難解なものに感じられるかもしれませんが、季語のルールや表現技法をしっかりと押さえたうえで、鑑賞するようにしましょう。今回の出題は解説文ですので、筆者の主張を押さえ、設問に答えていきましょう。

【解答】

① エ

② X 高貴の者の
　Y 初鰹の味が

③ ウ

④ Ⅰ 古来から重要な海の幸
　Ⅱ 例 鰹が鎌倉文化を代表している（13字）

【解説】

① ポイント《季語や表現技法の知識があるかどうか》

この句は三つの初夏を代表する風物を並べた句です。**ア**は、「青葉」が視覚、「郭公」が聴覚、「初鰹」が味覚にうったえています。**イ**は、「初鰹」も季語なので、季語は「二つ」ではなく「三つ」です。また、**ウ**は、この句には倒置法は使われていません。**エ**は、「青葉」「郭公」「初鰹」と三回、体言（名詞）で切れ、それぞれの語の印象が強まっているので合っています。したがって、**エ**が正解です。

② ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》

山口素堂の句の説明では、鰹が「江戸っ子の人気を呼んだ」ことが示されています。そして、「江戸の川柳」には、鰹をけなした吉田兼好を、江戸っ子が批判した句があると書かれています。『徒然草』のなかで、兼好が、「鰹は下賤の魚であり、それが高貴の者の食事にまで入り込んできたのを『世も末』と嘆いた」からです。筆者は、兼好について、「鰹より鯉に軍配を上げている」、「鰹で象徴される鎌倉（東）文化よりも、鯉で象徴される京文化のほうが好ましかったのだろう」と述べ、鰹の美味しさがわからない兼好は、江戸っ子にとって「初鰹の味がわからない唐変木」だったであろう、と考えています。よって、Xには「高貴の者の食事にまで入り込んできた」、Yには「初鰹の味がわからない唐変木」があてはまります。

③ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》

アは、九月頃の鰹の方が初鰹より脂質が多いため「一年のうちで最も脂質が多く」が誤りです。**イ**は、本文に「鰹・鮨・煮鰹・鰹煎汁・荒鰹」などの料理が紹介されているため、「鰹節の状態でのみ」は誤りです。**ウ**は、「鰹は釣れ始めるとどんどん釣れることが知られており、夢中になって釣っているうちに海に迷ってしまったとする物語の発端は極めて合理的である」という記述に合っています。**エ**は、「貴族の邸宅では、鰹を使ってどんなふうに料理するかは秘密にされていた」が誤りです。

④ ポイント《文章の内容を正しくまとめられるかどうか》

Ⅰは、日本における「鰹」の位置づけがわかる表現を探すと、「古代から食用として使われており」、「日本古来から重要な海の幸」などの表現が見つかります。よって、鰹が重要な栄養源であり、食文化に大きな役割を果たしていたことや、指定字数に合うことから、「古来から重要な海の幸」の部分を書きぬきます。また、Ⅱは、直前に、「鯉が京文化を象徴し」ていたとあり、鰹と鯉を対比している文脈なので、本文の「兼好にとっては、鰹で象徴される鎌倉（東）文化よりも、鯉で象徴される京文化のほうが好ましかった」という部分に着目し、「鰹が鎌倉文化（東文化）を代表した」という内容をまとめればよいでしょう。

4

【出題の意図と対策】

近年「読む」能力とともに、「話す・聞く・書く」能力の育成に力が入れられています。入試においては、「書く」能力を判定する記述式の問題とともに、スピーチ・発表・話し合いなど、「話す・聞く」能力を判定する会話形式の問題も頻繁に出題されています。話し合いと資料の融合問題では、話し合いのテーマや話し合いの流れ、各人の発言の特徴をつかむとともに、問題で用いられている資料の意図も正確に読み取ることが大切です。資料の最も大きい数字に着目すると、資料の特徴をとらえやすくなります。

【解答】

① ウ

② イ

③ ア・ウ（完答）

④ Y 例 ア（Y・Zで完答）
　Z 例 〔例えば、〕外来魚や商品価値の低い魚を使って加工食品を製造販売する。なぜなら、原材料の安い魚を使った加工食品は、値段の高さや調理の手間といった問題の解決につながるからだ。（79字）

【解説】

① ポイント《熟語の読み方の知識があるかどうか》

「台所」は、「台」が「ダイ」と音読み、「所」が「どころ（ところ）」と訓読みをしていますので、**ウ**が正解です。音読み+訓読みは「重箱読み」とも言われています。

② ポイント《資料を論理的に読み取ることができるかどうか》

「礼央さんの意見が論理的なものとなるために」という設問文の条件に注意する必要があります。礼央さんは、X のあとで「日本人の食生活が変わってきたと言えそうだね」と発言しています。その意見を裏付けるのは、肉類と魚の消費量が２０１１年度を境に逆転したことを説明した**イ**です。**ア**は、魚介類の消費量は２００１年度が40・２kg、２０２０年度が23・４kgですので「半量以下」が誤り。**ウ**は、「増加の一途をたどり」が誤り。**エ**は、肉と魚介類の消費量合計が１９８９年度は63・２kg、２０２０年は56・９kgでその差は６・３kgなので、「１０kg以上減少している」が誤りです。

③ ポイント《発言の特徴を理解できるかどうか》

アは、由奈さんの三回目の発言の特徴に合っています。**イ**は、礼央さんが「調査結果について自分自身の感覚を根拠に共感する意見を述べ」ているのは、礼央さんの二回目の発言ですが、礼央さんは「他の人に同意を求めて」はいませんので合っていません。**ウ**は、翔太さんは一回目の発言で「魚が苦手な人が増えているんだろうか」、二回目の発言で「骨のある魚をきれいに食べられる?」と疑問を示して話し合いを広げているので合っています。**エ**は、晴香さんが翔太さんの意見に対して資料を提示しているのは、晴香さんの一回目の発言ですが、晴香さんは自分の考えを述べていないので合っていません。**オ**は、礼央さんと翔太さんは、それぞれの最後の発言でみんなの意見をまとめてはいますが、問題を解決する具体策を提案しているのは晴香さんなので合っていません。

④ ポイント《資料を適切に利用して、論理的な文章が書けるかどうか》

一文目は【資料Ⅲ】に書かれた場面でどのような取り組みを行えばよいかを考え、できるだけ具体的に説明します。そして、二文目に、その取り組みがなぜ有効なのか、その理由を書きます。【資料Ⅱ】や会話文を参考にして考えましょう。たとえば、**イ**のスーパーでは、半調理済みの商品を販売する、その魚を使った献立を映像で流しながら販売するなどの取り組みを行えば、調理が大変、魚介類の調理法がわからないといった悩みが解決されます。また、**ウ**の給食は、魚メニューを増やす取り組みを行えば、調理が難しい魚であっても大量消費が見込めます。**エ**の外食産業は、地元の珍しい魚を一斉に利用すれば、地元の名物になる可能性がある、などが考えられます。